

23章 觀

光

觀

光

1. 自 然 公 園

十和田・八幡平国立公園

(昭和11年指定)

(昭和31年八幡平追加)

概 要

総面積85,409ヘクタールの十和田八幡平国立公園の内、青森県内では十和田・八甲田地域の34,635ヘクタール（境界未確定のため十和田湖水面を除く）が指定されている。

十和田・八甲田地域は、十和田湖の湖辺美、奥入瀬の溪流美、八甲田山の山岳美と変化にとんだ景観が見どころである。十和田湖は、湖岸に茂る木々に囲まれた、周囲44キロメートル、東西10キロメートル、最深327メートルの十和田湖の雄大な景観により年間を通じて探勝者が多く、その湖水の片隅から流れ出る奥入瀬溪流は、子の口から焼山に至る14キロメートルにわたって、奇岩と滝、急流が織りなすダイナミックな景観と、ブナやナラなどの木々の調和、特に紅葉時の景観の見事さで知られる。また、八甲田山は、湿原や湖沼、ブナやアオモリトドマツの原生林、豊富な高山植物、秋の紅葉や冬の樹氷など変化に富んだ景観をもち、温泉も多いことから年間を通して多くの人々が訪れている。

下北半島国定公園

(昭和43年指定)

概 要

下北半島は青森県の東北部から北へマサカリの形で突き出た半島である。本公園は本州最北の大間崎を北端とし、西は海蝕崖を主とする佐井村願掛岩から脇野沢村鯛島海中公園まで35キロメートルの海岸線部と、東は天然の放牧場となり寒立馬で有名な尻屋崎、さらに中央部には宇曾利山湖を含む恐山カルデラ一帯と、ヒバとブナ等の混交林に包まれた薬研溪流を擁している。

また特別天然記念物のカモシカや、棲息最北限として有名であり学術上貴重な価値を有するニホンザルが西海岸に棲息している。

近年、イタコの口寄せがクローズアップされて以来、霊場としての恐山や奇岩、怪石の独特な景観を有する仏ヶ浦にひかれて、下北半島を訪れる観光客も多くなってきている。

津 軽 国 定 公 園

(昭和50年指定)

概 要

津軽国定公園は、津軽半島最北端の竜飛崎から秋田県境近くの大間越海岸に至る約180キロメートルの海岸部と、岩木山や白神山地の山岳部、十二湖付近の湖沼群に分けられる。

海岸部は、竜飛崎、権現崎、高野崎等の海岸侵蝕の激しい景観と、十三湖や屏風山地区の高層湿原植物群を含む砂丘景観に分けられる。

津軽富士の名で有名な岩木山は山岳信仰の山でもあり、多くの観光客が訪れている。また白神山地は自然

環境保全地域（世界遺産）に指定されている。

十二湖は33の湖沼群からなり、日本キャニオン等とともに美しい湖沼美を備えている。

大鱒・碓ヶ関温泉郷県立自然公園

(昭和28年指定)

概 要

大鱒町と碓ヶ関村にまたがる温泉地域を中心に 6,730ヘクタールを指定している。溪流、滝、山岳等優れた自然景観に恵まれ、国体などで有名な大鱒温泉スキー場や茶臼山園地などスキー・自然探勝を中心とした利用が図られている。

平川の上流更に鉄道で19分位にして碓ヶ関に至るがここは碓ヶ関御関所と溪流に臨む文字通り静寂な温泉地として有名である。

種差海岸階上岳県立自然公園

(昭和28年指定)

(昭和49年階上岳追加)

概 要

ウミネコの繁殖地として有名な燕島から岩手県境までの美しい海岸線と階上岳一体の 2,427ヘクタールを指定している。雄大な砂浜海岸のある白浜海水浴場や天然芝地が広がっている種差海岸は、ドライブ、キャンプ、海水浴等の利用者が多い。また、階上岳には、6月上旬2万本のツツジが咲き誇る。

浅虫・夏泊県立自然公園

(昭和28年指定)

概 要

陸奥湾につきだした夏泊半島の地域一帯が含まれ、青森市と東津軽郡平内町に及び、指定面積は 5,466ヘクタール。昭和28年6月の指定である。区域内には、浅虫・椿山・浅所海岸・大島などの景勝地があり、交通の便もよい。

浅所から大島に至る東海岸には、白鳥の渡来地として知られる浅所海岸、ヤブツバキの自生北限地として天然記念物に指定されている椿山があり、海岸の風景も女性的なやさしさを見せている。これに対して、浅虫から大島までの西海岸には、海蝕による断崖や絶壁を見せた岬や島々が極めて男性的な景観を展開している。

これらの景勝地を結んで半島を一周する道路があり、海上からの観光には、観光船も出ている。

歩け歩けのハイキングコースだと小湊駅から浅所まで40分、安井崎灯台まで30分、立石海岸まで20分、白砂海岸まで40分、西田沢部落まで40分、そこから椿山まで15分である。歩くのが嫌な人はバスを利用、椿山まで直行すればよい。芝生におおわれた大島にわたり、白い灯台、緑の海で一休みというコースは快適である。

名久井岳県立自然公園

(昭和31年指定)

概 要

昭和31年10月に県立自然公園に指定された。名久井岳山頂を中心とする半径約2キロメートルのほぼ円形の地域と名久井岳の麓にある城山および諏訪平の飛地が公園地域である。

名久井岳は、三戸町・南部町・名川町の3町にまたがり、標高615.4メートルの比較的低い山で、外観は単峰のように見えるが、実際はいくつかの小山塊が寄り集まった起伏山地である。また一帯には、特別天然記念物に指定されているニホンカモシカをはじめキツネ、タヌキ、アナグマ、リス、イタチ、ノウサギ等の動物が生息している。

南部地方随一の霊峰としても知られ、山麓には法光寺、恵光院、野瀬観音など由緒ある寺院がある。頂上付近には月山奥の院があり、信仰の山として人びとからあがめられている。

また三戸町から名久井岳の8合目を経て法光寺に至る樹海ラインにより気軽に登山できる。

岩木高原県立自然公園

(昭和33年指定)

概 要

岩木山南麓に広がる高原を含み、面積25.81平方キロメートル、昭和51年6月に指定された。岩木山は春から秋にかけての登山、冬から春はスキー場として親しまれ、県内の最高峰・岩木山山頂からの展望は、津軽平野から陸奥湾、日本海も一望におさめ、きわめて雄大である。

登山口は弥生口、百沢口、岳口、鱈ヶ沢長平口、大石口の5つ。昭和40年8月には岳温泉から8合目まで有料自動車道岩木山スカイラインが完成、弘前市内から定期観光バスが運行され、さらに鳥海山噴火口までリフトも架設、リフト終点から頂上まで歩いて30分、一般の人の登山も容易になった。

山麓には奥の日光と称される岩木山神社をはじめ、津軽藩主を祀る高照神社があり、百沢・岳・湯段などの温泉も点在する。

芦野池沼群県立自然公園

(昭和33年指定)

概 要

中里町の大沢内溜池と金木町の藤枝溜池（芦野湖）の周辺の612ヘクタールを指定している。藤枝溜池（芦野湖）含む芦野園地は、津軽の霊地・川倉地蔵を有し、太宰治の記念碑と桜の名所としても知られ、遊歩道や小動物園なども整備されており、近年利用者が増大している。

黒石温泉郷県立自然公園

(昭和33年指定)

概 要

十和田八幡平国立公園の西の玄関口とも言える浅瀬石川に沿う、温湯・落合・板留・二庄内・青荷・沖

浦・切明・温川などの温泉が点在する黒石温泉郷を中心に 5,100ヘクタールを指定している。

また、津軽為信の津軽統一によって、浅瀬石川流域の中心が黒石になった。当初は今の境松付近に黒石館を設置したが、明暦元年（1655年）津軽三代藩主信義の弟信英が黒石に 5,000石で分知され津軽黒石藩の初代となりその城址が御幸公園である。黒石は文学碑の多い町だが、この御幸公園にも、黒石が生んだ新劇の指導者で詩人の秋田雨雀と、口語歌人の鳴海要吉の碑がある。

さらに、浅瀬石川ダムの雄大なダム景観、紅葉の名所として知られる中野紅葉山、青荷溪流、津軽こけし館などの施設もあり県外からの利用者も多い。

赤石溪流暗門の滝県立自然公園

(昭和56年指定)

概 要

世界遺産の登録になっている白神山地自然環境保全地域に隣接する赤石溪流と暗門の滝周辺の 5,239ヘクタールを指定している。

この地域は出羽山地の北端に当たり、連続する山脈と急な谷が複雑な地形を形成しており、変化に富んだ自然景観を見せてくれる。高さ85メートルのくろくまの滝を含む赤石溪流地区、典型的なV字谷地形から流れ落ちる暗門の滝（1の滝42メートル、2の滝37メートル、3の滝26メートル）、総貯水量 3,900万トンの目屋ダムで作られた人造湖・美山湖、野外レクリエーションの場として適している種里城趾等、特に秋の紅葉シーズンは圧巻で数多くの探勝者を魅了する。

2. 主 な る 名 所 旧 跡

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
青森ウォーターフロント周辺	青 森 市	県都青森市の海の玄関口ウォーターフロント周辺は、アスパムを始め、八甲田丸、青森ベイブリッジと楽しい話題を提供してくれる。青い海公園は夕暮れが美しい潮の香りのする公園である。	青 森 駅
酸ヶ湯温泉	青 森 市	八甲田の主峰・大岳（標高 1,585メートル）の西麓 925メートルにある。その昔、手負いの鹿が温泉で傷を癒していたことから「鹿の湯」と言われていた。昭和29年には、国民温泉第 1号の指定を受けている。80坪もの総ヒバ造りの「千人風呂」（混浴）には、熱の湯、冷えの湯、四分六分の湯、湯滝があり、それぞれの疾患によって入りわける。夏は登山、冬は湯治、スキー客の拠点である。	青森駅から J R バス

地域名	所在地	特 徴	交通機関
八 甲 田 山	青 森 市	標高 1,585メートルの大岳を中心として連なる山々の総称です。湿原植物の宝庫で夏は愛らしい花々を求めて登山客が、冬は青森トドマツのみごとな樹氷を求めてスキーヤーで賑わっている。	青森駅から J R バス
蔦 温 泉	上北郡 十和田湖町	奥入瀬川と合流する地点から蔦川を4キロメートル遡ったところにある秘湯。樹齢数百年と言われるブナの原生林、神秘的な雰囲気を含める蔦の七沼、森林浴や野鳥観察が楽しめる蔦野鳥の森自然観察路がある。十和田湖を人々に広く紹介した紀行作家・大町桂月が晩年庵を結んだ縁の地で、近くには墓もある。温泉は無色無臭の単純泉である。	青森駅から J R バス
奥入瀬溪流	上北郡 十和田湖町	十和田湖のもつ唯一の溪流で十和田湖子ノ口から焼山へと14キロメートル、約200メートルの高低差の溪流は天然記念物に指定されており、さまざまな流れを見せ、まさに千変万化。溪流沿いには水湿性植物が見られ、ブナ、カエデなどの落葉樹が多く、秋の紅葉期には、水の流れとあいまって世界一の溪流美と称される。	青森駅から J R バス、三沢駅から十和田観光電鉄バス
十 和 田 湖	上北郡 十和田湖町	青森・秋田両県の県境に位置し、湖の最深部は327メートルで全国第3位、面積は59.8平方キロメートルで第13位の十和田八幡平国立公園にある典型的な二重式カルデラ湖である。湖にはヒメマスが生息し、湖岸にはカツラ・カエデなどが生い茂り、春の新緑、秋の紅葉は美しく、国際的な景勝地である。	青森駅から J R バス、三沢駅から十和田観光電鉄バス、弘前駅から弘南バス
弘 前 城	弘 前 市	往時を忍ぶように現在6つの郭と天守閣、3つの櫓と5つの城門が残っており、天守閣など8つが文化財に指定されています。天守閣を取り囲むような弘前公園は桜の名所、3千本以上の桜が咲き競う様は全国一、二位の景観である。	弘前駅から弘南バス
浪 岡 城 跡	南 郡 浪 岡 町	吉野朝（14世紀後半）初期東北地方に活動した北畠氏は親房の子顕家、顕信等が拠点を失った後、陸奥、出羽の北方に逃れて後図を計ったといわれるが北畠氏最後の拠点としての浪岡城跡は、北畠累代の墓所と共にその面影を残した由緒ある史跡指定地である。	J R 浪岡駅から弘南バス

地域名	所在地	特 徴	交通機関
猿 賀 神 社	南郡尾上町	この神社の祭主は仁徳天皇時代、エゾの地に戦死した田道命を祀り旧藩時代までは天台宗神宮寺が別当であった、津軽地方三大祭典の一つとして陰暦8月15日の行事には数万の参詣者が集まる。この境内林はイチョウ、ハルニイを数株交え3月下旬から9月下旬まで、アオサギ、ゴイサギ、ワカサギ等が群集し営巣する。このワカサギは天然記念物に指定されている。	弘南鉄道 黒石駅から弘南バス
大 鱈 温 泉	南郡大鱈町	古くから温泉の地としてまた観光地として知られ冬は国体スキー競技場として全国に名高い。更に隣村碓ヶ関温泉を加えて大鱈・碓ヶ関温泉郷として県立自然公園に指定されている。	大鱈駅から徒歩
岩 木 山	中郡岩木町	本県の最高峰として海拔1,625メートルの岩木山は、岩木、厳鬼、鳥海の三峰に分れ、その姿は富士に似ており「津軽富士」とも称されている。陰暦7月下旬から8月上旬にかけて、津軽地方の守護神様といわれる岩木山神社に、五穀豊穡と家族安泰を祈願し白装束での登山行事が行なわれていたが、現在は女人禁制も解かれ、県外からの登山客も集まる。	弘前駅から弘南バス
岩 木 山 神 社	中郡岩木町	岩木山の麓に顕国王神、多郡北壳神、宇賀能売命の三神を祀る岩木山神社があり、津軽地方の総鎮守として岩木山を信仰する神社である。奈良時代光仁天皇の宝亀17年(780年)北麓十腰内に宮居を定め堀川天皇の寛治5年(1091年)に南麓の今の地に移したという説がある。宮居は天正17年(1589年)火災になったが慶長6年(1601年)津軽為信の崇敬によって再興し、9カ年を費して本殿唐門四脚門、玉墻など造営したが明治初期(1872年)廃仏棄釈に当たって多くの文化財は散逸し現在では少数の什物のみとなっている。近くに百沢及び獄温泉がある。	弘前駅から弘南バス
暗 門 の 滝	中郡西目屋村	県内随一を誇る暗門の滝は三段に分れ、一段の滝は42メートルに達する。また瀑布で4キロメートル離れた所から瀑音が聞えるといわれる。	弘前駅から弘南バス
深 岩 浦 崎	西郡深浦町 〃 岩崎村	JR五能線沿線は、いわゆる西海岸と呼ばれ、深浦を中心にして奇岩、怪礁、白砂の流辺あり、地震で海床が隆起し奇観を呈する千畳敷があり景勝地としてすぐれているばかりでなく、30余の沼が連鎖状を呈する十二湖と秋の紅葉は、観光地として代表的なものである。また、津軽文化の発祥地としての史	深浦駅から弘南バス

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
亀ヶ岡遺跡	西郡木造町	<p>蹟も多く、昔坂上田村麿が安置したと伝えられる十一面観音が古稀春光山円覚寺にあり、境内には千年を経た老杉、大銀杏が昔の面影をしのばせる。</p> <p>旧館岡村の亀ヶ岡に発掘された土器から、弥生式文化が西日本に、縄文式文化は東日本に栄えたということがわかり、しかも北上するに従って発達の度を高め、本県はこの文化圏の晩期には中心的地位にあたり亀ヶ岡がその核心をなしていたことが証明されている。</p>	五所川原駅から弘南バス
竜飛岬	東郡三厩村	津軽半島の最北端にある竜飛崎は奇岩の連続、海岸線屈曲に富み、北海道を目前に眺めた景観は、遊覧に最適地として知られる。又、三厩村には昔源義経が弁慶を従いこの地から渡道したと伝えられる義経寺がある。	三厩駅から青森市営バス 青森から青森市営バス
婁月海岸	東郡今別町	竜飛岬と共にこの地は、海岸線の屈曲、奇岩連続、又、断崖絶壁の景勝地として名高い。	青森、今別、蟹田から青森市営バス
七戸城跡	上北郡七戸町	七戸城は南部又次郎師行の弟南部六郎政長が奥州から新田義貞の鎌倉攻めに参加し、此の軍功により建武元年甲斐鎌倉見山の地を賜っており、その後七戸の地を賜り根拠とし政長の孫政光が領知して改修しその子孫が相継いだといわれる。高さ100尺、東西97間、南北60間の1,209坪余りで、本丸には堀を巡らしたらしく今も少しの水をたたえる。	上北町駅から十和田観光電鉄バス 十和田市から十和田観光電鉄バス 野辺地駅から南部縦貫鉄道
法量の公孫樹	上北郡 十和田湖町	法量のイチョウは法量淵沢善正寺跡にあり雄株で樹高約27メートル、幹のまわり12メートル、太枝が俗に乳と呼ぶ柱瘤が多数垂れ下がり、その最大のもは基部周囲約60センチメートル、長さ2.42メートルもある。地上数米の所から36本の太枝が繁り樹相雄々しく、夏緑の姿は周囲の風情と相呼応し一大パラダイスの景観を呈している。この樹齢は約千余年と推定され天然記念物に指定されている。	十和田市から十和田観光電鉄バス
櫛引八幡宮	八戸市	櫛引八幡宮は南部氏の始祖光房が貞応元年甲州より遷座したものとされ、同社所蔵の五種の甲冑が国宝に指定されている。	八戸から南部バス

地域名	所在地	特 徴	交通機関
八 戸 市	八 戸 市	八戸市は昔、南部道房 2万石の城下町として、また県南の首邑として栄えた。現在は東北有数の工業水産都市として人口24万余を数えている。八戸市にある燕島は天然記念物うみねこの繁殖地として全国的に有名である。	本 八 戸 駅
種 差 海 岸	八 戸 市	八戸市の海岸“うみねこ”繁殖地の燕島を含んで対岸の鮫町から、白浜、深久保、種差、法師浜大久喜の弁天島までの8キロメートルを起伏のなだらかな平原と松原、海浜の芝生、太利の怒濤をかむ巨岩、奇石又放牧の馬等が織なす情趣は、景勝の地として偉観を呈し、昭和12年名勝地に指定されている。	八 戸 線 種 差 駅
法 光 寺	三 戸 郡 名 川 町	法光寺は、昔御深草院の御代建長年間の開創で、鎌倉執権最明時頼公が奥州行脚の際この地に登り、時の無銀山観音寺に意を留め、鎌倉から大工、左官、鍛冶、木挽等を派遣して新たに七堂伽藍を建立し、白樺山法寺と号したといわれる。	剣吉駅から名久井まで南部、三八五バス
浅 虫 温 泉	青 森 市	全国有数の温泉郷として海辺の絶景地として知られ、青森県営浅虫水族館もある。	浅 虫 温 泉 駅
椿 山	東 郡 平 内 町	全山椿に覆われた椿山は海岸線の景勝と相俟って春5月の開花する頃は一大壮観を呈し、椿の自生最北限地として天然記念物に指定されている。この椿についての伝説もある。	小湊駅から青森市営バス 青森から青森市営バス
浅 所	東 郡 平 内 町	平内町小湊から椿山への途中、浅所海岸は白鳥の渡来地として有名である。毎年10月下旬群をなして渡来するがその来る場所、去る場所は明らかでない。この白鳥は特別天然記念物に指定されている。	同 上
尻 屋 岬	下北郡東通村	太平洋に突き出す下北半島の東端。古くからガス（濃霧）が発生しやすく海の難所といわれており、光度 200万カンデラ、光達距離34キロメートルの日本一明るい灯台がある。放牧されたまま冬を越す「寒立馬」も見られる。	むつ市から下北交通バス
恐山・薬研温泉	下北郡大畑町 む つ 市	下北半島の中央部に聳える恐山は休火山で日本三大霊場の一つとして有名である。又薬研温泉は紅葉と岩石嶮峰の多い渓谷美に富んで有名な山峡の温泉で周囲は三大美林の一つひばの原生林に覆われ仏法僧の鳴声も又神秘的である。	大畑町から下北交通バス むつ市から下北交通バス

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
仏ヶ浦	下北郡佐井村	約3キロメートルにわたって奇岩怪石が立ち並ぶ海岸で、青白色の硬質凝灰岩が吹きつける風と打ち寄せる波によって形造られ、その景観は、まさに大自然の芸術品のよう。付近の海域一帯は仏ヶ浦海中公園に指定されている。	青森市、佐井村から下北汽船
下風呂温泉	下北郡風間浦村	太平洋に面した磯の香の漂う岩磯の温泉として特殊な趣があり、また夏の夜にはイカ釣り船の漁火が海峡を彩り、観光地として名高い。	
是川遺跡	八戸市	是川遺跡からは新石器時代縄文式文化期の遺物が多数出土しており、特に植物性遺物が学界の注目を浴び、昭和18年史跡に指定されている。出土品は300点にのぼっているが、その大多数は重要美術品の指定を受けている。漆の加工された精巧な土器類と共に漆加工の植物性遺物が多数発掘されていることが特徴である。	八戸市から八戸市営バス

資料 県観光課

注：本表は文化財と多少重複する個所もある。

3. 主なる天然記念物及び文化財

ウ ミ ネ コ

鷗科に属する鳥で八戸市鮫駅より北へ1キロの沖合にある周囲2.7キロの燕島を繁殖地としている。地元では「ゴメ」ともいう。雌雄同型極めて愛らしい小鳥である。彼女らは3月中旬南の島から八重の湖路を白い翼に託して渡来し始め4月中旬頃までに全群棲集団となる。その頃から島の草原や岩石の凹みなどに、足の踏場もないほど巣をつくり5月には、一つの巣に三つ位の卵を産み雌雄交互に抱いて孵化する。これが3週間から24日目位で、6月上旬には親鳥に連れられて岩蔭や草原に遊んでいる可愛い雛を見る事が出来る。やがて8月中旬から9月中旬にかけて一人前に成長し島の付近を飛び廻るようになり、10月上旬海上を自由に飛べるようになれば一群、二群と島を去り南に帰って行き、翌春この島を訪れる頃には一人前になっている。土地の人は彼女達を神の御使姫と呼んで大事にしている。

ハ ク チ ョ ウ (特別天然記念物)

東郡平内町浅所は白鳥の渡来地として有名だが、遠浅の海岸に群をなして毎年10月下旬飛来し、何処から来て何処へ去るか未だ判然としていない。一説にはノルウェーの北部海岸あるいはシベリアといわれている。磯馴松の島影を映ずる小松島は橋でつながれ、地元民は毎年飛来する数千羽のハクチョウを神の使いとして大切に保護している。

椿 山

平内町浅所海岸からバスで安井崎灯台を過ぎ優美な景観を誇る海の終点、東田沢に有名な椿山と椿山神社がある。ここは全山椿に覆われ自生最北限地として天然記念物に指定されている。この椿は昔越前の横峰嘉平という商人が交易にきて土地の娘タマとねんごろになった。あるときしばしの別れで悲嘆にくれるタマに椿油を持って必ず訪ねると約束して国へ帰った。嘉平が翌年再び訪れたときには、タマはすでに亡く、嘉平はやるせない思いを胸に持参した3株の椿をタマの墓畔に植えてこの地を去った。その霊がこもって南国の椿が全山に広がったと伝えられ、小高い山の頂上から椿山を見下す美しさは古人をして

“あらいそに寄せ来る浪も照るばかり

田沢の山に咲く玉椿”

と詠嘆せしめている。神社の境内は天然の芝生で家族連れのピクニックに好適である。

法量の公孫樹（銀杏）

上北郡十和田湖町の法量にある銀杏の木は、奥入瀬川に沿う路の丘上にあり樹齢一千年といわれる地上5尺の周囲16尺、樹高72尺の大銀杏である。

猿 賀 神 社

黒石よりバスで4キロ、弘南鉄道尾上駅より1キロの所に猿賀神社がある。昔、坂上田村麿が勅を奉じて建立したものといわれている。この神社は殺生禁断の地としても名高く各種の鳥が飛来する。

長 勝 寺

弘前市内西茂森町にあり、津軽家累代の菩提寺として寺格高く津軽曹洞宗の本山であった。ここは津軽候が事ある場合に備えて僧兵を置いた寺で、道をはさんでこの長勝寺には藩祖以下の歴代の霊屋がある。長勝寺の三門を入ると高さ8間の楼下には金剛力士の像、楼上には五百羅漢を安置している。梵鐘は北条貞時の寄進になり重要文化財に指定されている。嘉年四年丙午鑄造の華鯨堂庫及び蒼竜違の諸建築など壮麗な一大伽藍である。

最 勝 院（五重塔）

最勝院境内にある五重塔は重要文化財で、寛文8年藩祖為信が津軽を統一した際に戦死した敵、味方の供養のため四代目信政の建立したものであり、4年の歳月と一万四百二十両の工費を要したといわれる。高さ17間1尺、広さ4間5尺四方、露盤及び九輪宝珠はともに渡辺近江大緑の作である。軒の出深く折組は三手先を用い、繁雑な装飾を用いずして坊齋の美を現している。この塔は単なる招魂堂ではなく軍事上夷敵を監視する目的をもたせて造られたものといわれる。

弘 前 城

弘前城は津軽の藩祖為信が企画し二代目信政が慶長15年2月着工し、同16年6月完成したもので、以後三百年間津軽十萬石の居城で日本七名城の一つに数えられる。本丸、武者溜、二の丸、三の丸、内池、四の北、西の廓八、櫓と城門十二、濠三重、東西五町四十間、南北八町四十六間、面積14万4千余坪の平山城である。築城以来一度も戦災を被らなかつただけに櫓、門など昔のままである。天守閣は落雷のため焼失したもので後三層に構築したものである。城内には老杉が翠を飾り、5千本の桜の名木が繁っている。桜は正徳5年嵐山から25本の吉野桜を移植したのが始めといわれているが、現在ある5千本は故山内寛弥翁が明治12年城内数ヶ所の空き地を開拓し、以来数回に亘り大量移植したので現在の如く東北一の桜の名勝となったもので、例年4月下旬から5月上旬のさくら祭りには遠方からの団体客などで賑わう。本丸の石垣の入口には千年の鶴の石、万年の亀の石が配置され、松上ではウグイスやホトトギスが鳴き、清澄な内濠には葦が一面に生えている。弘前市の西北3里津軽平野の真っ只中に巍然として聳える海拔1,625メートルの岩木山を本丸から眺める風景は、あたかも三保の松原と富士山を彷彿せしめるものがある。春は桜花、夏は蓮華、秋は紅葉で俗塵を脱した市民の行楽の地である。

弘 前 八 幡 宮

もと中郡大浦村鼻和庄八幡村にあったものを津軽為信が堀越城に遷座し、さらに慶長17年信政が現在の地に勧請して弘前の鎮守とした。金剛山最勝院に三百石を賜り、この八幡の別当としたが、神仏混淆を廃せられて後、最勝院は大円寺に移された。祭神は誉田別尊外三神で、境内には老杉が茂り、樹間から岩木山と八甲田山を西と東に眺められる景勝の地である。

誓 願 寺 (貞昌寺)

この寺は約四百年前津軽為信が京都の誓願寺を招じて大光寺町に建立したが、慶長年間弘前に移し為信の室月尼の廟所として津軽一宗の総録と定めた。浄土宗に属し県下で一番古く、同宗第一の寺格をもち藩主の菩提寺として貴重品が保存されていたが失火で全焼した。その後再建して現在に至る。

岩 木 山 神 社

中郡岩木町百沢にある。顕国王神、多都北売命、宇賀能売命の三神を祀り、津軽地方総鎮守の社として崇められている。祠堂は結構壯麗を極め彫刻が精巧で奥日光の称がある。延暦15年桓武天皇の草創といひ、又、坂上田村麿將軍の造営とも言われる。津軽家に至っては崇敬最も厚く、寛永5年本堂を築造し、本社は津軽信政が貞享3年から元禄7年にわたる7ヵ年の月日と18万両を費して造営したもので、本殿、奥門、瑞垣、中門、楼門、拜殿は重要文化財に指定されている。お山参詣はこの神社の祭典日で旧(陰暦)8月1日に行われ、神社参詣と岩木登山をかねて参拝するものである。

4. 自然公園別観光レクリエーション客入込数等

(単位:千人, %, 百万円)

公園名	観光地名	58年	59年	60年	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	対前年比
国立公園	十和田	2,365	2,443	2,563	2,812	2,837	2,777	2,982	3,110	3,262	3,203	98.2
国定公園	下北半島	1,149	1,193	1,253	1,348	1,336	1,270	1,321	1,292	1,294	1,217	94.0
	津軽	1,763	1,879	2,035	2,220	2,153	2,220	2,231	2,336	2,495	2,510	100.6
県立自然公園	浅虫温泉	1,174	1,048	1,051	1,093	1,080	1,089	1,125	1,176	1,180	1,217	103.1
	大鱈・碓ヶ関温泉郷	873	1,049	1,065	1,154	1,115	1,031	1,030	1,161	1,212	1,132	93.4
	種差海岸岳	490	543	567	587	565	584	624	670	625	619	99.0
	名久井岳	373	383	403	430	422	420	429	441	458	467	102.0
	岩木高原	411	413	424	454	453	468	483	495	503	505	100.4
	黒石温泉郷	499	532	547	590	598	665	937	1,158	1,062	1,015	95.6
	芦野沼群	319	354	418	419	418	458	453	496	507	483	95.3
	赤石溪の流滝 暗門	81	97	104	108	98	99	101	124	158	181	114.6
	小計	4,220	4,419	4,579	4,835	4,749	4,814	5,182	5,721	5,705	5,619	98.5
合計		9,497	9,934	10,430	11,215	11,075	11,081	11,716	12,459	12,756	12,549	98.4
観光消費額		61,881	63,192	68,044	74,193	72,865	68,416	73,963	78,553	149,099	154,465	96.5

資料 県観光課「青森県観光統計概要」

注: 観光消費額については、平成3年から県全体の額である。